



USA



대한민국

2020 新潟国際情報大学

海外派遣留学制度・夏期セミナー



中华人民共和国



Россия



Canada

はじめに

派遣留学制度（国際学部：ロシア・中国・韓国・アメリカ）は、2年生後期のカリキュラムのなかに組み入れ、希望する学生は、2年後期に約4カ月間留学し、4年間で卒業できる制度です。また、夏期セミナー（情報文化学部・経営情報学部）は、2～3年生の夏期休暇中、カナダでの4週間セミナーに参加するものです。

これは、学生が世界各地で生活しながら学ぶことにより、その国の言語を学ぶことはもとより、世界と日本・新潟を結ぶ架け橋になることを期待して、提携大学の協力の下に企画したプログラムです。世界にたくさんの友人をつくり、世界の架け橋になって下さい。さらに、皆さんは、この留学を通じて人間的に大きく成長することと思います。世界の人々と語り合い、異文化での勉学と生活を経験したことが、これからの皆さんの人生における自信に繋がるでしょう。

そのためには、留学中は、まず勉強が大切です。授業など留学先の大学の学校生活を真面目に送るのは基本中の基本。しかし、それですべてではありません。机に向かって勉強することだけが勉強ではないからです。日常生活を通してその国の言葉や文化を自然に身につけて慣れていくことが何よりも大切です。それが留学の魅力でもあります。その留学の魅力を思う存分味わうためには、まず異文化に対する旺盛な好奇心と積極性をもたなければなりません。失敗を恐れずにぶつかっていく楽天的な考え方と行動力があれば、留学生活はどんなに大変でも絶対に成功すると思います。

本学の留学プログラムに参加する学生を見ると、親元を離れて一人で生活するのが初めてという人がほとんどです。その初めての経験が外国だから不安も大きく、また期待も大きいはず。ここで忘れてはならないのが、日本で日本人として暮らすときと違って、外国に出ると、皆さん一人一人が日本人・日本の若者として<見られる>立場になるということです。自分の身の安全も含め、責任ある行動が求められます。このような自覚は、きっと自分の成長に繋がることでしょう。外国での生活は、自分自身を見つめなおすよい機会でもあるのです。

年度別参加学生一覧（過去3カ年）

	派遣留学				夏期セミナー	計
	ロシア	中国	韓国	アメリカ	カナダ	
2016年度	6	10	15	23	26	80
2017年度	8	3	15	22	12	60
2018年度	13	14	6	17	10	60
計	27	27	36	62	48	200

目次

はじめに(概要)	1	ページ
派遣留学(国際学部)	3	ページ
ロシアコース	6	ページ
中国コース	9	ページ
韓国コース	12	ページ
アメリカコース	16	ページ
体験記(4コース)	19	ページ
Q&A	28	ページ
夏期セミナー(情報文化学部・経営情報学部)	29	ページ
カナダコース	30	ページ
体験記	32	ページ

派遣留学

2019年度派遣先一覧

国名	留学大学	日程
ロシア	ウラジオストク国立経済大学	9月9日(月)～12月30日(月)
中国	北京師範大学漢語文化学院	8月26日(月)～12月28日(土)
韓国	慶熙大学校国際教育院	8月31日(土)～12月26日(木)
アメリカ	セントラル・ミズーリ大学	8月22日(木)～12月13日(金)

留学費用と奨学金

派遣留学制度を利用して提携校で留学するには、本学2年次後期の授業料のほかに、留学にかかる費用として、往復航空運賃、宿泊費、生活費等（アメリカコースは約110万円程度、その他の3コースは30～60万円程度）が参加学生の自己負担となります。ただし、大学から参加学生全員に奨学金（2019年度はアメリカコースは30万円、その他の3コースは20万円）が給付されます。また、旅行保険や小遣い等は別にかかります。

留学費用はお小遣いやアルバイト代を貯めるなどして、早いうちから準備することをおすすめします。

留学先での単位修得

ロシアコース、中国コース、韓国コース、アメリカコース、すべてにおいて最大18単位を修得することができ、修得した科目の単位は、本学で開設されている科目の単位として認定されます。もちろん勉強せずに遊んでばかりいても単位を修得できるほど甘くはありません。留学先の大学で一生懸命勉強してください。

2020年度参加者スケジュール概要

2019年度（1年次）

前期	4月	地域研究と地域言語の学習がスタート。
	7月	「国際交流フェア」 写真や映像、画像を使った先輩の留学体験の話が楽しみです。
後期	1月下旬	2019年度派遣留学参加学生帰国報告会
	3月	留学や各国について大いに関心を高め、具体的に検討を始めて下さい。

2020年度（2年次）

前 期	4月上旬	派遣留学参加申込み
	5月中旬	参加学生の決定 面接等によって参加学生を決定します。参加の可否は、教員が成績と学習意欲を重視して決定します。
	5月中旬 8月	参加予定者事前研修会 全体で1回、コース別に10回前後の説明会と研修会を実施します。
	6月	参加費用納入・誓約書提出・奨学金授与式 これで正式に参加決定となります。以後参加をキャンセルした場合は費用を返金できない場合があります。
夏 休 み	8月下旬 9月初旬	出国 約4カ月の派遣留学のスタートです。 (出国の時期はコースにより異なります。)
後 期	12月中旬 12月下旬	帰国 様々な異文化体験を積んで、無事に帰国。全員大きく成長していることでしょう。
	1月下旬	帰国報告会 素晴らしい体験を仲間に、そして後輩に伝えてください。
	2月上旬	留学報告書を提出。 忘れないうちに感動を記録に。

(注) 上のスケジュール表は、過去に実施した派遣留学に基づいて作られています。
予定は変更となる可能性があります。

ロシアコース

(内容は過年度のものですが2020年度も大きく変わることはありません。)

提携校：ウラジオストク国立経済大学 (ウラジオストク市)

ウラジオストク国立経済大学 (VSUES) は 1967 年に開学した。中央キャンパスはウラジオストクの市内中心部に位置している。8 つの学部を擁し、学生数は 1 万 5000 人を数える。各学部の名称は以下の通りである。

経済・経営・ビジネス学部	情報・イノベーション・ビジネスシステム学部
国際関係・社会工学学部	サービス・モード・デザイン学部
法学部	外国語センター
国際教育学部	通信教育学部

学士課程は 4 年間である。法科大学院、修士課程、博士課程に進学し、さらに高度な専門教育を受けることもできる。

学内には複合スポーツ施設 (屋内プールとトレーニング体育館) と芸術スタジオシアターがある。また、屋内温室庭園や学生用のカフェ・食堂がある。大学専用の学生寮は 1200 名収容で、ロシア国内出身の学生と外国人留学生が居住している。

ウラジオストク国立経済大学はウラジオストクにおける最高水準の教育機関のひとつであり、ロシア連邦教育省からいくつもの賞を受けている。ロシア国内全体の大学格付けでは 550 大学中の 63 位であり、サービス業の専門家を養成する大学の格付けでは全国 1 位である。

ウラジオストク国立経済大学は諸外国の大学と提携している (アメリカ、日本、中国、韓国、ニュージーランド、オランダ、スペイン、ブルガリア、イタリア)。また、アメリカ、ニュージーランド、中国の複数の大学と連携し、卒業時に 2 つの大学から同時に学士学位を取得できる共同学位 (ダブルディグリー) プログラムを実施している。

事前研修

5月	第1回	全体ガイダンス、パスポート取得と入学手続き
	第2回	ロシア人の日常文化
6月	第3回	留学準備のスケジュールと渡航手続き
	第4回	留学中の Do's & Don'ts
	第5回	奨学金授与式・懇談会、履修科目と授業内容
	第6回	生活ロシア語
7月	第7回	留学先大学の構成・キャンパス・学内規則等
	第8回	留學生活と勉強について
	第9回	ロシア人の日常文化と生活ロシア語
8月	第10回	出発直前チェック

その他の日程

5月上旬	パスポート取得
6月上旬	パスポート・コピー郵送
8月上旬	招待状受領 入国ビザ申請 (新潟ロシア総領事館)
8月中旬	ビザ取得

留学日程

9月上旬	出国（成田空港）
9月中旬	授業開始
11月上旬	中間視察（必要に応じて）
12月下旬	授業終了、試験期間、帰国（成田空港）

経 費

経 費	280,000円
〈内 訳〉	
・航空運賃（往復）	55,000円
・授業料	140,000円
・寮費（食費含まず）	80,000円
・諸費用	5,000円

その他の費用として

①旅券（パスポート）取得料	10年有効：16,000円 5年有効：11,000円
②入国査証（ビザ）申請・更新料	8,000円
③海外旅行傷害保険料	約35,000円
④諸費用	約15,000円

〈内 訳〉

- ・生活指導委託費、送迎バス費、健康診断費、学生証作成費等

⑤その他食費（寮内食堂、1日600円程度）及び個人的な支出（小遣い）が必要です。

- （注）
- ・ロシア語授業料及び寮費は1ルーブル＝2円で換算。
 - ・今後の円相場の変動、及び一部プログラム内容の修正等によっては、必要経費に変更が生じる可能性があります。
 - ・参加学生が留学から帰国した後、必要経費を差し引いて残金が発生した場合は、その残金を返金いたします。

時間割(例) （注）授業は1コマ90分で行われます。クラスによって授業内容が変わります。

	月	火	水	木	金
1限	会話ロシア語	基礎文法・語彙	ロシア語読書	ロシア語聴力	ロシア語読書
2限	ロシア言語生活	ロシア語聴力	基礎文法・語彙	会話ロシア語	基礎文法・語彙
3限	ロシア社会史	ロシア音楽	極東ロシア	現代ロシア	社会調査（4回）

◆1コマ90分 1限8:30～10:00/2限10:10～11:40/3限13:30～15:00

授業科目紹介

■会話ロシア語

ロシア語会話の基礎知識を深める科目です。

■ロシア社会史

帝国ロシアの歴史概説を取り上げるコースです。ロシア史に名を残した皇帝や女帝を紹介しながら、分かりやすい言葉でそれらの統治時代の特徴を説明するものです。

■基礎文法・基礎語彙

ロシア語の基礎文法と頻繁度の高い言葉の意味と用法の知識を深める科目です。

■ロシア言語生活

日常生活のロシア語を学びながら、その特徴と理解する力を養う科目です。

■リスニング・コンプリヘンション

ロシア語スピーチを聞き分ける力を養う科目です。

■閲読

授業で書物・文書などを調べながら読むことによる読解力向上を目指す科目です。

■絵画の基礎

ロシア語で指導を受けながらデッサンの描き方と基礎技法を学び、自分の作画能力を上げる事を目指す科目です。

■極東ロシア

東シベリアの一部である極東の開発史と現状を中心とするコースです。視聴教材を利用して、極東ロシアの現代経済・社会・文化の知識を深めることを目指しています。

■ロシア民族音楽

ロシア語初心者向けの授業ではロシア民族楽器の引き方を覚えながら、ロシア音楽文化を紹介する科目です。

課外授業等

市内観光、郊外観光、スポーツ大会、文化祭、クリスマス・コンサート、新年行事

寮生活

留学中の宿泊先は、ウラジオストク国立経済大学の学生寮です。5階建ての寮の1, 2階になっており、安全が保たれています。部屋は二人部屋で、二つの部屋が一つのセクションをなしています。各セクションには4人共用のトイレ、ボイラー付きのシャワー、調理室がついているので、自炊も可能です。部屋はいずれも勉強机、いす、ベッド、洋服ダンス等があります。タオル、手ぬぐい、ベッドシーツ、枕カバーなどは定期的に取り換えてくれます。生活には不自由しません。

中国コース

(内容は過年度のものですが2020年度も大きく変わることはありません。)

提携校：北京師範大学（北京市）

北京師範大学は中国で最も早く創立された近代教育機関の一つです。北京大学とともに京師大学堂（1898）という母体から生まれ、1902年に北京師範大学として再建されました。現在は中国政府に指定された重点大学の一つであり、清華大学、北京大学、中国人民大学と並べて、北京の「四大名校」と称されています。北京市の中心部に位置し、社会施設の利用にも、街や史跡の見学にも大変便利です。

北京師範大学は22の学院、36の研究院および多数の学術研究所を持つ総合大学です。学部での専門は58個、修士学位の専門は166個、博士学位の専門は111個あり、現在、4年の学部生は約8,900人、大学院生は約11,300人、長期留学生は1,800余人が在学しています。蔵書は410余万点あり、中でも貴重な書籍や文献が20万点以上あり、国宝レベルの文物は4万点を有しています。国際交流の面において、イギリス・アメリカ・ロシア・ドイツ・日本・韓国・シンガポールなどの国と大学間の交流を行なっています。

本学留学制度の派遣先である漢語文化学院は、著名な言語学者をはじめ人文社会科学分野で活躍している代表的な学者が多く、中国の対外漢語教学の「人材育成基地」として中心的役割を果たしており、毎年全国から優秀な教師予備軍が選抜されてここに集まってきます。世界各国から多くの留学生や研究者が来ており、中国語・中国文化の教育には優れた経験と実績があります。

事前研修

5月	第1回	全体ガイダンス、入学申請書の記入方法を指導
	第2回	入学申請書の記入
6月	第3回	北京師範大学での学習、生活と学生交流、各種の注意事項 宿題：中国語の自己紹介文
	第4回	奨学金授与式、懇親会
	第5回	異文化理解・国際交流の心得（レポート）、荷物託送の説明
7月	第6回	保険加入の説明と手続き、ビザ取得の書類記入
	第7回	自己紹介の練習、中日学生交流会の出し物の打合わせと決定
	第8回	留学会話指導
	第9回	海外渡航知識、北京での生活、健康管理、治安・交通等について
8月	第10回	直前確認：各種書類と荷物託送状況、出し物準備の状況、出発と帰国に関する注意、到着後の最初の日程

その他の日程

- 5月下旬 推薦書と成績証明書準備、航空券の予約
6月中旬 北京師範大学へ書類送付
7月中旬 ビザ取得の手続き、北京師範大学と契約書を調印、交換

留学日程

- 8月下旬 集合、出発（新潟空港－成田空港－北京空港）
入学手続き、クラス分け試験
9月上旬 入校式典
授業開始
日中学生交流会
12月下旬 帰国（北京空港－成田空港－新潟空港）

経 費

経 費 530,000円

〈内 訳〉

- ・航空運賃（往復） 110,000円
- ・授業料等 253,000円
 - （内訳）登録費 450円
 - 学 費 12,200円
- ・寮費（食費を含まず） 163,000円
（65元／1人1日×126日（18週間）＝8,190円）
- ・査証申請料（手数料を含む） 3,000円
- ・諸雑費 1,000円

- （注）・授業料及び寮費は1元＝20円で換算しました。
・今後の円相場の変動、及び一部プログラム内容の修正等によっては、必要経費に変更が生じる可能性があります。
・参加学生が留学から帰国した後、必要経費を差し引いて残金が発生した場合は、その残金を返金いたします。

その他の費用として

- ①旅券（パスポート）取得料 10年有効：16,000円
5年有効：11,000円
 - ②海外旅行傷害保険料 約45,000円
 - ③教科書代：約600円（約12,000円）
 - ④食費：約1,200円／月（4ヶ月で約96,000円）
 - ⑤生活管理委託費：700円（約14,000円。到着後、支払い）
 - ⑥現地医療保険：300円
- （注）①～⑥は概算で19万円程度になります。
- ⑦その他個人的な支出（小遣い）

授業科目紹介

一、101級全課程

■中国語・会話

現地生活に馴染む会話を訓練し、社会文化の内容に広がる会話を習得する。

■中国語・精読

様々な作品を読解し、文章を書く能力、書面形式による表現能力を身に付ける。

■中国語・聴力

現地の人々とのコミュニケーションのための、ヒヤリング能力を訓練する。

■文化交流・会話

現地生活に馴染む会話を訓練しながら、社会文化の内容に広がる会話を習得する。

二、中華才芸

学生は実際に身体を動かして中国文化の体験に参加する。主に書道、絵画、太極拳などを学び、中国人の才芸と生活哲学の一側面を理解する。

三、学外研修(言語実習)

北京以外の地域に行き、当該地域の民間の生々しい言語生活を調査し、その歴史や民俗の博物館を参観し、地元市民が日常楽しむ芸能を見学する。レポート提出を義務づけられる。

その他

宿泊施設は北京師範大学キャンパス内の新松公寓あるいは蘭蕙公寓である。2人部屋で、ルームメイトは本学学生と同部屋、または非日本人との同部屋が可能。本件については、事前の申込みが必要。

室内設備：洗面所(シャワー室)、トイレ、照明、エアコン、金庫、電話、テレビ、冷蔵庫、学習机、椅子、ベッド、寝具等。

- * 公寓には会議室、自習室、売店、美容室、レストラン等の施設がある。
- * 管理は、ホテル方式。係員が毎日掃除を行い、枕と布団のカバーやシーツも定期的に取り替えてくれる。
- * フロントは随時様々なことに対応してくれる。

北京市外への旅行は勧めない。強い要望がある場合、天津に限って許可する。このためには、親の許可(電話を大学の担当教員にかける)と本人の誓約書が必要。

韓国コース

(内容は過年度のものですが2020年度も大きく変わることはありません。)

提携校：慶熙大学校（ソウル市）

2019年に開校70周年を迎えた慶熙大学校は「文化世界の創造」という校是を受け継ぎ、韓国の大学の国際化をリードする名門大学で、現在ソウルキャンパス・国際キャンパス(水原)・光陵キャンパスに20余りの学科(部)が設置されており、1999年度大学入試多様化評価にて最優秀大学として選定されたことをはじめとし、数年間に各種教育改革評価において最優秀大学として選定されています。1999年には「ソウルNGO世界大会」を開催し、現在77カ国523校と姉妹提携を結び、大学間の単位交換、語学研修、際交流プログラム等を実施しています。その他、韓医科大学は国内最高の韓方医学として韓医学の国際化と国世界化をリードしています。また、韓国内初の韓国語教育専攻を学部開設し、質の高い教育を実施しています。

本学と提携関係にある慶熙大学校国際教育院は、最高の講師陣と最新設備を整えた語学専門教育機関です。1993年に韓国語教育プログラムを開始し1996年には「大韓民国政府招聘諸外国人奨学生プログラム」の韓国語研修機関として選定され、毎年100カ国以上6,000名以上の留学生が韓国語を勉強しています。

また慶熙大学校の学生とマンツーマンで行われる「トウミ（チューター及び言語交換の友達）制度」は、留学生一人一人が韓国での生活に適応し韓国語の学習や韓国の文化を理解する上で重要な役割を果たしています。この他に、外国語教育部では慶熙大学校の学生や一般の人のための英語や日本語、中国語等の外国語講座を開講していて、またインターネットによるオンライン韓国語学習ホームページも運営しています。

事前研修

5月	第1回	全体ガイダンス、全体の注意事項
	第2回	韓国社会の現状（政治・経済・文化）
6月	第3回	韓国の歴史と文化
	第4回	日本人として留意すべきこと
	第5回	韓国の留學生活の状況（日本との比較） 下宿・寄宿舍で注意すべきこと
	第6回	最新の韓国事情
7月	第7回	生活に必要な韓国語会話（1）—自己紹介、学校、寄宿舍
	第8回	生活に必要な韓国語会話（2）—買い物、病院、レストラン
	第9回	書類等の最終確認
	第10回	最後の諸注意

その他の日程

- 6月中旬 奨学金の交付
- 6月中旬 経費の納入
- 7月下旬 ビザ取得
- 8月中旬 下宿先決定

留学日程

8月下旬	出発（新潟空港）、寄宿舍入居
9月上旬	入校式、クラス分けテスト、オリエンテーション 授業開始 韓国文化教室（料理、工芸等）*希望者のみ
10月中旬	中間試験
11月上旬	現地学習（南怡島）
12月中旬	期末試験 現地学習（ナンタ公演観覧）、修了式
12月下旬	自主研修及び帰国準備、帰国

経 費

経 費 580,000円

〈内 訳〉

- ・航空運賃（往復） 80,000円
- ・授業料等 292,000円
 - （内訳） 入学金 60,000ウォン
 - 授業料等（教材費含む） 2,819,600ウォン
 - 生活指導費 31,250ウォン
- ・宿泊施設 約200,000円
（寄宿舍：50万ウォン/月×4か月=200万ウォン）
- ・諸雑費 8,000円

（注）・授業料等は100ウォン=10円で換算しました。

- ・今後の円相場の変動、及び一部プログラム内容の修正等によっては、必要経費に変更が生じる可能性があります。
- ・参加学生が留学から帰国した後、必要経費を差し引いて残金が発生した場合は、その残金を返金いたします。

※派遣留学期間終了後、私費により留学を延長する場合は別途授業料及び滞在費が必要となります。

その他の費用として

- ①旅券（パスポート）取得料 10年有効：16,000円
5年有効：11,000円
- ②外国人登録費 50,000ウォン（約5,000円）
- ③海外旅行傷害保険料 約35,000円
- ④食費 学生食堂では1食2,500（約250円）ウォン程度である。
- ⑤その他個人的な支出（小遣い）

時間割(例)

		月	火	水	木	金
1限	9:00~9:50	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語
2限	10:00~10:50	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語
3限	11:00~11:50	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語
4限	12:00~12:50	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語
5限	14:00~16:00	韓国の歌	韓国の映画	現代韓国事情	ゼミナール	

授業科目紹介

- 韓国語会話2
公的機関の利用、尊敬語の使用等、多様な状況で自身の問題を解決できるよう練習する。
- 韓国語聞き取り2
韓国語の音韻現象を理解し、日常生活の会話のみでなく特定のテーマに関する談話内容を聞いても理解できるようにする。
- 韓国語作文2
中級水準の語彙を利用し、長文の作文ができるようにする。
- 韓国語文法2
引用文、使役文等、韓国語の複雑な文法構造を理解し、使えるようにする。
- 韓国語読解2
複雑な内容の韓国語資料を読解し、中級水準の語彙を学習する。
- 韓国の歌
韓国の多様な歌を通して韓国語の学習を深めると同時に、歌を生み出した韓国文化について学習する。
- 現地学習（学外実習）
ソウル市内の踏査、水原市内踏査（韓国民俗村・慶熙大学水原キャンパス）、演劇公演の観覧、三星電子工場、雪岳山、KBS放送局等を視察する。
- 現代韓国事情
各分野の専門家の特別講義を通じて、韓国の政治、経済、社会、文化について幅広く学習する。
- 韓国の映画
韓国の映画を見て、その中で使用される韓国語を学び、時代的な背景、文化的な背景を学習する。
- 韓国研究ゼミナール
韓国社会の諸問題から各人がテーマを選択し、韓国語による発表、討論、レポートの提出を行う。
- トウミ（チュータ）授業
一対一の個人的な会話の練習

課外授業等

- ・ 現地学習・南怡島（11月）
- ・ ナンタ公演観覧（12月）
- ・ 派遣留学期間中、毎週土曜日国楽院の国楽教室 <希望者のみ>

宿 泊 先

寄宿舍は2人1部屋でシャワー・トイレ付き、毛布・枕・シーツ貸与、机・椅子・クローゼット備え付けです。女性専用フロアと男性専用フロアに分けられています。門限は、平日は12時、土日は深夜1時です。建物の中に食堂や売店・読書室などがあってとても便利です。わりと新しい建物なので、設備も充実していてきれいです。

慶熙大学の学生や他の国からの留学生との幅広い交流ができ、楽しい経験になると思います。

アメリカコース

(内容は過年度のものですが、2020年度も大きくかわることはありません。)

派遣留学先：セントラル・ミズーリ大学（ミズーリ州ウォレンズバーグ市）

セントラル・ミズーリ大学は1871年に創設され、5つの学部と1つの大学院を擁する州立の総合大学です。学生数は13,000名でミズーリ州以外からも全米43州、世界57カ国から2,000名以上の留学生在籍しています。場所はカンザス・シティから東に約80キロのウォレンズバーグ市にあり、人口約2万人ののどかな地方で、治安は非常に安全です。広大なキャンパスにはスポーツジムやコンサートホール、映画館などさまざまな施設があります。「ムービーナイト」という映画の無料上映、音楽や演劇を学ぶ学生たちが行なう公演も観覧出来ます。近くにアメリカ航空基地があることから、航空学が有名でパイロットを目指す学生が集まっています。学生寮は教室棟から徒歩5分ほどの場所に位置しています。マスコットはミュールです。

事前研修

5月	第1回	全体ガイダンス、パスポート、クレジットカード、リーダー選出、ビザ申請手順
	第2回	UCM登録、ビザ申請手続
6月	第3回	ビザ申請手続
	第4回	ビザ申請手続
	第5回	奨学金授与式・懇談会、ビザ申請手続
	第6回	ビザ申請手続
7月	第7回	学生寮書類記入
	第8回	留学報告書・体験レポートの説明、委員選出、留学経験者の話
	第9回	ミズーリ州および大学について
8月	第10回	コース内容の最終確認

留学日程

8月中旬	出発（成田空港）
8月下旬	オリエンテーション
	授業開始
12月中旬	授業終了
	アメリカ出発
	帰国

経 費

経 費 1, 110, 000円

〈内 訳〉

- ・航空運賃(往復) 230, 000円
- ・成田前泊費 8, 000円
- ・授業料及び寮費(食費含む)等 867, 460円
(\$7, 886×110円)
- ・諸雑費 4, 540円

- (注) ・授業料等及び寮費は\$1=110円で換算しました。
 ・今後の円相場の変動等によって所要経費に変更が生じる可能性があります。
 ・参加学生が留学から帰国した後、必要経費を差し引いて残金が発生した場合は、その残金を返金いたします。

その他の費用として

- ①旅券(パスポート)取得料 10年有効:16, 000円
5年有効:11, 000円
- ②入国査証(ビザ)申請料 17, 600円程度
(ビザ申請前に日本円で支払います。申請料の他に、ビザ取得には東京のアメリカ大使館で面接を受ける必要がありますので、そのための往復交通費がかかります)
- ③SEVIS管理費 220ドル
(アメリカ入国ビザを申請するには、ビザ申請前にSEVIS管理費を支払う必要があります)
- ④海外旅行傷害保険料 約35, 000円
- ⑤新潟一成田空港間の往復交通費
- ⑥その他個人的な支出(小遣い)

時 間 割

月	火	水	木	金
リーディング 9:00~10:50	コミュニケーション スキルズ 9:00~10:50	リーディング 9:00~10:50	コミュニケーション スキルズ 9:00~10:50	
英語文化関連1 11:00~12:50	英語文化関連2 11:00~12:50	英語文化関連1 11:00~12:50	英語文化関連2 11:00~12:50	文化活動 課外活動 地域との交流
Lunch Break 13:00~13:50	Lunch Break 13:00~13:50	Lunch Break 13:00~13:50	Lunch Break 13:00~13:50	
英語文化関連3 14:00~14:50	米国文化研究 13:00~14:50	英語文化関連3 14:00~14:50	米国文化研究 13:00~14:50	
米国史 15:00~15:50	ゼミ・米国と日本 15:00~15:50	米国史 15:00~15:50	ゼミ・米国と日本 15:00~15:50	
TOEIC 16:00~16:50		TOEIC 16:00~16:50	CP* 16:00~16:50	

※CP: カンパセーション・パートナー
 ※予定は変更になる場合があります。

授業科目紹介

語学科目

■リーディング

文学、ジャーナリズム、および学術論文を読んで、アカデミック・リーディングのスキルズ(概要をつかみながら読む、大事なポイントを抑えながら読む、口頭および文書で要約する)を育成する。

■コミュニケーション・スキルズ

大学生活における日常およびアカデミックな場面でのリスニング、スピーキング、プレゼンテーション・スキルズを育成する。

■TOEIC

リスニング、リーディング、ディスカッションおよびビジネス関連のトピックを用いた学習を通して、TOEIC テストの準備をする。

アメリカ文化

■英語文化関連

アメリカ英語の発音に焦点を当てる。また日常英語を文化理解の視点から学ぶ。

■米国史

語学科目で学んだアカデミック・スキルズを用いて、開拓時代から現代の多文化なアメリカまで米国史を概観する。

■米国文化研究

語学科目で学んだアカデミック・スキルズを用いて、現代のアメリカ社会と文化、特にアメリカ文化については教育、政治、メディア、スポーツ、家族、ポップカルチャについて学ぶ。

■ゼミナール・米国と日本

アメリカと日本の文化について比較検討し、将来のより良い関係構築の可能性を考える。グループでのディスカッションや発表を行なう。

■カンバセーション・パートナー

1) NUISの学生2、3名に対し1名のカンバセーション・パートナーが付き、週に1度会って決められたトピックについて情報や意見を交換する。2) NUISの学生は「アクティブ・バディ」という学内で行なわれるアクティビティ(スポーツイベント、劇、コンサート、パフォーマンス、映画祭等)に付き添うアメリカ人学生とその文化の違いについてディスカッションする。3) NUISの学生は毎週定期的にかンバセーション・パートナー・アワーに参加するが、そこではアメリカ人学生とゲームをしたり、カジュアルな会話をする場が提供される。

食事・医療体制

キャンパスには3つのダイニング・エリアがあり、イタリアン、中華、サラダ・バー、喫茶などさまざまな食が提供されています。本校の学生はこちらを3食利用できるミールプランに入りますので、大学で発行される Student Identification Cardを使って食事ができます。また、11月のサンクスギビング・ブレイク(約1週間)にはダイニング・エリアが営業していないため、本学学生のために特別メニューが提供されます。医療に関しては、学内の医療保険に加入するためヘルス・センターを低価格で利用できます。なお、日本の海外旅行損害保険にも加入しますので、24時間年中無休の日本語救急サービスが利用できます。病気・けが等のトラブルにあった場合、直ちに電話し相談もしくは対処方法を確認して下さい。

派遣留学体験記 留学の感動をあなたにも!!

派遣留学に参加した学生には毎年度「留学報告書」を書いてもらいます。ここではその中からほんの一部を抜粋して紹介します。先輩たちが留学で経験した貴重な体験と感動を感じ取ってください。

ロシア …………… ウラジオストク国立経済大学

中国 …………… 北京師範大学

韓国 …………… 慶熙大学

アメリカ …………… セントラル・ミズーリ大学

ロシア・ウラジオストク国立経済大学

国際文化学科 2年 多田 実莉

1 留学先及び実習期間

留学先：ウラジオストク国立経済大学

留学期間：平成30年8月28日(火)～平成30年12月26日(水)

※帰国は12月27日(木)

2 留学先概要

大学について

ウラジオストク国立経済大学は1967年に開学した大学であり、ウラジオストクの市内中心部に位置している。学部は経済系、美容やデザイン系の学部があり合計で8学部存在する。学士課程は4年間だが、法科大学院や修士課程に進学することも可能である。大学内にはスポーツ施設として屋内プールと体育館が存在する。また、学生が食事できるカフェや食堂も複数存在する。学生数は1万5000人以上であり、学生が利用できる大学専用の寮(1200人入居可能)が大学に隣接している。この寮はロシア人はもちろん、日本や韓国などからの外国人留学生も多く利用している。

この大学はサービス業の専門家を育成する大学のランキングで国内トップを誇り、ロシア国内全体でも550大学中63位である。そのためロシア連邦教育省から賞を受けたこともある。前述したように経済をはじめ美容やデザインといった学部があるため、大学と専門学校が複合している印象である。

3 留学目的

今回の留学の目的は第一にロシア語の上達である。日本にいるとロシア語に触れる機会は大学以外ではかなり少ない。しかし語学を習得するときに大切なことは、その言語にできるだけ多く触れることである。実際身近にありふれている英語は学校で学ばなくとも、日常生活の中で自然に意味を習得していることがある。このことから周りの環境がロシア語にあふれているならば日本にいる時よりもロシア語を学べる機会が多くなるといえるのではないか。また、ロシア人と実際に交流することで、より自然なロシア語を習得できるメリットもある。つまりロシア語に囲まれた状況で、自分のロシア語力を包括的に向上させることがこの留学の狙いだった。

第二の目的として自身の自立を目的としていた。自分自身この留学に参加するまで日本から一歩も出たことがなかった。ロシアという異国においてきちんとした生活が行えるようになることは自分にとっては大きな目的であり、ある意味一番の懸念材料だった。

4 スケジュール

月	日(曜日)	行事
8	28日(火)	到着、入寮
	30日(月)	市内観光
9	5日(月)	授業開始
	15日(土)	灯台観光
	30日(日)	虎の日(フェスティバル)
10	5日(金)	公園でオリエンテーション
	6日(土)	サーカス鑑賞
	14日(日)	紅葉狩り
	28日(水)	オペラ鑑賞
	31日(土)	動物園

11	3日(土)	バレエ鑑賞
12	10日(月)～17日(月)	テスト週間(クラスや科目によって異なるためあくまで目安)
	20日(木)	留学生一同でお茶会
	21日(金)	スキー場へ
	25日(火)	成績書授与
	27日(木)	帰国

5. 授業関係

ロシア到着後すぐにクラス分けのためのロシア語テストがある。クラス分けが発表されるまでの1週間は留学生全員が同じクラスで授業を受ける。その後クラス分けと時間割が発表される。時間割は以下の表の通り。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限 (8:30 - 10:00)	文法	文章表現	文章読解	文章読解	会話表現
2 限 (10:10 - 11:40)	会話表現	聞き取り	会話表現	聞き取り	文法
昼休み (11:50 - 13:20)					
3 限 (13:30 - 15:00)	地理	美術		音楽	歴史

i. 文法

先生がスライドやプリントを使い文法を教えてくれる。クラスは少人数で行うため質問がしやすく、授業についていけない心配はあまりない。しかし日本の大学で使うテキストを一通り読んでおくとさらに理解が深まる。留学前に予習が可能な科目である。

ii. 会話表現

週に3回ある最も授業回数が多い科目。どの科目も発言は必要だが、特にこの科目では必要度が高い。ロシア語で留学生同士がテキストの会話文を参考に会話する。パワーポイントによるプレゼンテーションを求められることもある。

iii. 地理

ロシア沿岸地域の地理を学ぶ。上記の授業に比べ専門用語や日常会話であまり使わない単語が出てくる。事前にロシアの地理についての説明文を翻訳したり必要単語を調べておくと授業がよく理解できる。

iv. 文章表現

基本的な文章の書き方から始まり、最終的にはセリフを含む文章で物語を説明するというロシア語表現力が向上する授業。自分が書いた文章を先生がすぐ校閲してくれるので間違いをすぐ訂正でき、より自然な文章を学べる。

v. 聞き取り

単語や会話文を聞き取りそれを書き取るといった授業である。細かいロシア語の発音を学べる。単語を聞き取るためほかの授業以上に単語を覚える機会が多い。

vi. 文章読解

ロシア語の文章の読み方を学べる。ロシア語がすべて理解できなくても文章の内容がつかめるようになる。

vii. 美術

ロシアの伝統工芸品や絵画について知ることができる。それらをモデルにし絵を描いたりする。クリスマスにはツリーにぶら下げる小さいマスコットづくりも行った。

viii. 音楽

ロシアの民族的な曲から最近の人気曲まで学べる。歌詞カードを見ながら全員で合唱する。ロシアの民族楽器を奏でている動画を観たり、それについての説明を先生から受ける。

ix. 歴史

授業前の予習が必須である科目。テキストを授業前に読み、それについての設問に答える。キエフ大公妃などの歴史を学んだ。地理と1, 2を争うほど専門用語や日常会話で使わない単語を扱う。

6. イベント関係

i. 灯台観光

ウラジオストクの有名な観光地の一つであるトカレフスキー灯台。海沿いまではバスと徒歩で移動した。



ii. 虎の日

ロシアでは9月最後の日曜日にあるのが「虎の日」。アムールトラなどの保護を目的とし、広場近くでパレードが開催される。大勢の人が虎の仮装やメイクを施し一堂に会する。



iii. オペラ、バレエ鑑賞

両方ともマリインスキー劇場の沿海州別館で鑑賞した。料金も手ごろで学生でも参加しやすく、多くの留学生が参加した。オペラに関しては英語字幕ありで歌詞が理解しやすい。

iv. スキー場

スキー場というよりは雪遊びのできる大きな公園という印象。スキー、スケート、チュービング(浮き輪のようなものに座り、斜面を滑り降りるもの)などができる。食事のできるカフェもある。

v. お茶会

留学生一同が集まりお茶会をした。ロシア伝統のサモワールを用いてお茶を淹れてもらった。

vi. 成績書授与

一人一人に今までの成績書が手渡される。このイベントで主な授業は終了し、帰国準備となる。



7 当初目的・目標への達成度

今回の留学目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) ロシア語を上達させること

今回の留学体験によってロシア語が総合的に上達した。最初は聞き取れなかったロシア語の会話文も帰国するまでにはかなり聞き取れるようになった。またロシア語で物語を書く課題を行ったことでロシア語での作文能力が身についた。留学後に日本で使っていたロシア語のテキストがスラスラ読み、上達実感できた。

ii) 自立すること

寮生活では洗濯や炊事などの基本的な家事を行っていたので生活スキルが留学前と比べ格段に向上した。またさまざまな国出身の留学生と交流することで、会話が向上したのに加え、異文化理解にもつながった。

8 反省・課題

4か月間の留学は自分自身をあらゆる面で向上させられる有益な機会であった。今回の反省点としては留学前の予習である。留学前はパスポートのことや荷造りなどに追われがちで肝心のロシア語学習がおろそかになっていた。ロシアに着いてからもっと単語を覚えてくればと何度か事前学習の重要性を痛感した。

今後の課題は今回学んだ多くのことを無駄にしないために尽くすことである。ロシア語能力に加え今回培った自立心を帰国すると忘れがちである。留学経験は得るだけでなくそれを自身の今後に生かして初めて本領を発揮するものだと考える。

謝辞

今回の留学先であるウラジオストク国立経済大学の皆さま、留学先で知り合った留学生の皆さま、そして奨学金授与等によって今回の留学をサポートして下さった新潟国際情報大学の皆さまに深く感謝申し上げます。



中国・北京師範大学（北京市）

国際文化学科 2年 新保 拓人

1 留学先及び実習期間

研修先：北京師範大学 漢語文化学院

研修期間：平成30年8月27日(月)～平成31年1月7日(月)

※帰国は1月7日(月)

2 留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は北京の海淀区に位置する。海淀区は約220万人が在住しており、多くの大学が密集している都市である。北京師範大学は北京大学、精華大学、中国人民大学とともに北京四大大学とされている大学のひとつで、22の学院、6の学部、14の研究所を有する総合大学である。大学内には図書館、体育館、運動場、テニスコート、バスケットコートなどの多くの施設が完備されている。また、多くの留学生を受け入れているため、留学生寮や食堂などの施設が充実している。そして北京の中心に位置しているため、公共施設の利用や、街並みや史跡の見学、観光にも大変便利である。

(2) 大学で行われている教育について

北京師範大学は多くの留学生を受け入れていることに特徴がある。留学生は、事前に行ったテストによって6段階のクラスに分けられる。中国語を1から学ぶことができるクラスから、レベルの高い中国語を学ぶことができるクラスまで幅広く存在する。これによって自分のレベルに合った中国語の授業を受けることができる。クラスは10人程度の少人数で構成されており、より充実した環境の中で学習を行うことができる。北京師範大学での成績は新潟国際情報大学の単位へと換算される。

3 留学目的

今回の留学の目的は、中国語におけるスピーキング能力とリスニング能力の向上である。中国語の学習において、これら2つの能力はほかの能力と比べると苦手と感じる部分であり、授業以外で中国語を使用しない日本では、特にスピーキング力については身に付かないと感じた。これらの能力を向上させるためには、中国に留学に行き実際に中国語を母国語とする人たちと接することで、より正確で生きた中国語を学ぶことができると考えた。また、留学は語学だけではなく、その国の文化を学ぶことができる。中国人や留学生との関わりを通じて、他国の文化や視点、価値観を肌で感じ、異文化理解を学ぶことを目標とした。

4 スケジュール

月	日(曜日)	行事
8	27(月)	到着 入寮
	28(火)	入学手続き
9	30(木)	クラス分け試験
	31(金)	入学式
10	3(月)	授業開始
	8(日)	日中交流会
	22(土)～24(月)	内モンゴル旅行
	1(月)	国慶節
11	1(木)～2(金)	中間試験
	10(土)	HSK試験
	12(月)～17(土)	研修旅行 江西省
12	25(日)	日韓交流会
	16(日)	北京の夜
	27(木)～28(金)	期末試験
1	4(金)	修了式
	7(月)	帰国

5 時間割

時間/曜日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五
第一節 8:00～8:45 8:55～9:40				读写	
第二節 10:00～10:45 10:55～11:40			会话		会话
昼休み					
第三節 13:30～14:15 14:25～15:10	听力	会话	读写	辅导	听力
第四節 15:30～16:15 16:25～17:10	读写	听力			书法

※101-5班の授業スケジュール

- ・クラス分け試験によって分けられたクラスごとで授業スケジュールは変わる
- ・1クラス15人程
- ・授業は45分×2の90分授業である。間に10分間の休憩がある。
- ・101-5のクラスには日本人以外に、韓国人、ロシア人、フランス人、イギリス人、ポーランド人、ブルガリア人、タジキスタン人の学生と一緒に勉強していた。

6 授業内容と留学の詳細

i) 听力 リスニング

教科書の本文や新出単語を、CDや先生の声を聴きながら学習し、

リスニング能力を高める授業である。試験もすべて、授業に沿ったリスニング形式で行われる。

ii) 読写 リーディング

主に長文を多く読み文章内の単語や文法を学び、その文章についての問題を解く。ほかの授業と比べて問題の数を多く熟すことによって、文法をしっかりと理解することが出来る授業形式である。また、毎週300字程度の教科書に沿った作文の作成が宿題として出するため、習った単語や文法を実践的に使用できる。

iii) 会話 スピーキング

会話形式の文章の読み上げや、2人以上のグループを作り教科書のテーマに即した発表や劇を多く行い、中国語を話すことに重点を置いている授業である。また、パワーポイントを使用して1人でプレゼンを行うことも多くあり、授業で習った単語や文法を実用的に学ぶことができる。

iv) 辅导 チュートリアル

授業で解らない箇所や、予習、復習で解らなかった箇所を先生に質問することが出来る時間。一対一で質問ができるので、会話の練習にもなる。基本は自由参加のため、普段より学生数が少ない。

v) 书法

中国の伝統的な書道を学び、中国人の才芸や歴史的背景を理解する授業。漢数字の一や二から練習するため、日本人にとっては簡単な授業である。

7 授業外の活動

i) クラス分け試験

中国語のレベルに合わせてクラス分けを行うための試験。筆記試験と口頭試験がある。

ii) 日中交流会

北京師範大学の日本語学科の中国人と交流する。お互いに出し物を用意し披露した。

iii) 内モンゴル旅行

中国北部に位置する内モンゴル自治区に旅行に行く。

iv) 研修旅行 江西省

漢語文化学院主催の研修旅行である。歴史的建造物や世界自然遺産を見学、観光する。

v) 日韓交流会

北京師範大学の韓国人学生と運動会を通して交流を深める。

vi) 北京の夜

各国の留学生が伝統的なダンスや歌を披露する大学内のイベント。

8 当初目的・目標への達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) 中国語能力の向上

留学当初は今まで習った中国語が吐き出すことが出来ず、伝えたいことを伝えることが困難であったが、4か月間日本語のない環境に身を置いたことで、語学能力は確実に向上したと考える。留学当初には聞き取れなかった周囲の中国語も理解できるようになっていた。また、留学期間中、HSK4級に合格することができた。

ii) 国際交流

日中交流会で仲良くなった学生と北京市内を観光したり会話をしたことによって、中国人から見た中国について理解することができ

た。クラスは留学生のみで構成されるため、様々な国の学生と交流することができた。授業では自国の文化や風習について中国語で紹介することもあり、他国の文化や慣習を理解することができた。また、クラスの学生同士で将来は中国語を使用して仕事をするのかを話し合い、将来について考えるいい機会となった。

9 反省・課題

クラスでは消極的になってしまい、自分の意見を伝えられるようになるまで非常に苦勞し、クラスに馴染むまでに時間がかかった。今後の課題としては、中国語力の低下が挙げられる。留学中よりは確実に中国語と離れてしまうこととなるので、中国語を忘れないために、そしてより語学力を伸ばすために日々勉強を続けていきたい。4か月という短い期間であったが、いままでの人生の中でも特に非常に充実していた4か月であった。今回の留学で学んだ経験を活かし、価値観にとらわれず、広い視点から物事を理解し、柔軟な考えを持てるように精進していきたい。

謝辞

今回の留学で、北京師範大学にて私たち留学生のお世話をしてくださった黄薇さん、その他大勢の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、本学の中国留学担当で 2018 年度前期の授業、留学のサポート、帰国後の活動への指導を賜りました、佐藤若菜先生、區建英先生には心より感謝いたします。最後に、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、派遣留学参加が実現し、貴重で有意義な体験ができたことを、心から感謝いたします。



韓国・慶熙大学（ソウル市）

国際文化学科 2年 竹之内一菜

1 留学先及び実習期間

留学先：慶熙大学 国際教育院

留学期間：平成30年9月1日(日)～平成30年12月27日(木)

2 留学先概要

(1) 大学について

1949年‘文化世界の創造’という創立の下に開校した慶熙大学は、ソウル、スウォン、カンヌンの3つのキャンパスに分かれ総合的な学術の殿堂を構築している。特に、慶熙大学では国際化を推進しており21世紀のグローバル時代をリードする大学として世界78カ国、508校の大学と国際交流協定を締結している。

(2) 大学で行われている教育について

慶熙大学の国際化、世界化をリードする国際教育院は、韓国最高の韓国語・外国語専門教育機関である。特に、慶熙大学の学生と留学生在が1対1で文化交流を行う「韓国語トウミ(チューター)制」は、留学生活において韓国語文化をお理解するための重要な役割を担っている。

(3) 国際教育院での教育について

韓国語専攻は、初級Ⅰ・Ⅱ、中級Ⅰ・Ⅱ、上級Ⅰ・Ⅱのレベルごとに分けられたクラスで様々な国籍の学生たちと韓国語を学ぶ。文法、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの5つの分野に分かれた教科書に沿って授業を行う。総合的に韓国語の運用能力を身につけることができる。

3 留学目的

今回の留学の目的は、現地に来たからこそできる事を存分に体験し、吸収することだった。本場だからこそできる文化体験や、実際に韓国人と会話をし、同じ環境で生活することにより留学なしでは味わうことのできない経験をすることを目標とした。

4 スケジュール

月	日(曜日)	行事
9	1	到着・入寮
	2	自由
	3	オリエンテーション・クラス分け試験
	6	現地学習(Nソウルタワー・国立中央博物館)
	13	現地学習(ロッテワールド)
	21	クラスの集まり・修了式
	22～30	秋夕(チュンク)休み
10	11	ハングル大会、慶熙大秋祭り
	12	慶熙大秋祭り
11	7	現地学習(南怡島)
12	3～4	期末試験
	7	修了式
	10～20	TOPIK対策講義
	21	修了式(nuis学生)
	22～26	自由研修
	27	帰国

5 時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語	韓国語
午後	韓国の映画	韓国事情(特講)	セミナー	韓国の歌	

6 授業内容等

i)初級1

文法、リスニング、スピーキングの教材を用い、主に日本人のみのクラスで韓国語の基礎を確認し合うことが目的。

ii)初級2

文法と日替わりでリスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの教材を用い、外国人と共に韓国語の基礎から学び、様々な場面での韓国語運用能力を身につける目的。

iii)韓国の映画

毎週月曜日の午後に行われる授業。映画を見る前にあらすじや映画のポイントを理解した後に韓国語字幕で鑑賞する。その後、映画の中で印象的な場面や台詞を発表し合う。リスニング能力や内容全体を理解する能力が高まる。

iv)韓国事情(特講)

毎週火曜日の午後に行われる授業。おもに、韓国の文化に触れることを目的とする。テコンドーを体験したり韓国の伝統楽器チャングを演奏したり、北村韓屋村に行き、昔ながらの家や建築物を見たりと毎週様々な角度で韓国の文化を体験した。

v)セミナー

毎週水曜日の午後に行われる授業。日韓の文化について最終発表をするための準備をする。文化比較をしながら日韓の文化の違いや今後の展望など一定の結論に導く発表を行った。資料集めから始まり、原稿を書き、発表する中で確実に韓国語能力が高まる。

vi)韓国の歌

毎週木曜日の午後に行われる授業。韓国の歌をジャンル別、年代別、季節別などに分け鑑賞し、歌詞を読解したり曲の雰囲気を感じたりして様々な音楽に触れた。最後の授業では、各自興味のある歌手についてパワーポイントを作り各々の形で発表した。

vii)現地学習

3週間コースで2回、10週間コースで1回行った。3週間コースでは、初級1のクラスの仲間とNソウルタワー・国立中央博物館とロッテワールドアクアリウム・ロッテワールドアドベンチャーへ行った。10週間コースでは、初級2の仲間と南怡島(ナミソム)へ行った。

viii)中間考査・期末考査

文法、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの5科目を2日に分けて行う。スピーキングの試験では、先生と1対1で対

話をし、クラスメイトとグループを作りスキットを作り発表する形式だった。

ix)ハングル大会

ハングルがつくられた「ハングルの日」にちなんで行われた大会。外国人が集まりお題のハングルで書かれた文章を書き写し誰がもっともきれいに書けるかを競った。nuisからも3名が入賞した。

x)TOPIC対策講義

康熙の授業過程が終わったあとにnuisの学生のみで行う講義。TOPIC1のリスニング、リーディング過去問をひたすら解いた。

xi)修了式

3週間コース、10週間コースが終わった後国際教育院全体で修了式がある。しかし、そこではnuisの学生たちは賞状を受け取らずにnuisの学生のみで修了式を開いた。国際教育院長と留学生生活を振り返りながら、卒業賞状を受け取った。

7 当初目的・目標への達成度

当初の目的であった現地に来たからこそできることを存分にやるということ達成できたと感じる。韓国での日常生活を満喫できたことはもちろん、留学で出会った人たちとの出会いを大切にしたい。トウミの友達や、クラスの友達、先生方など留学を通して出会った人たちとのかわりが大きな財産になった。韓国人トウミとは、週に1度学校終わりに会い韓国語を教えてもらったり、休日に地下鉄に乗って出かけたりした。クラス外国人の友達とは、韓国語で互いの故郷について話したり、クラス会を開いてご飯を食べに行ったり積極的に交流をした。留学に来たからこそ出会えた友達との出会いを存分に満喫しようと、交流に積極的に取り組んだ。この出会いこそが留学で得たことのひとつでもある。また、韓国語の上達も留学で得た大きなことである。韓国人の友達と会話を重ねていくにつれ、表現の仕方やフレーズを自然と覚えることができた。また、その日授業で習ったことを韓国人の友達に対して実践し、伝えることがうれしくて日々勉強に励んだ。このように、韓国に来たからこそその体験を生かし生活や友人関係、勉強すべての面において非常によく充実させることができた。

8 反省・課題

反省点は、トウミと話すときに知らない単語や表現があったときに聞き返さなかったことだ。会話を止めることに抵抗があり、わからないことをそのままにしてわかったような素振りをしてしまうことが多くあった。せっかくの韓国語を教えてくれるトウミがいるにもかかわらず正直に言えなかったことを非常に後悔している。留学後の現在、nuisに留学に来ている韓国人留学生のサポーターをしているが、現在はわからないことをそのままにせず正直に教えてもらっている。恥ずかしがらずに自分のわからないことを聞いている。また、自分が日本語を教える立場になった時も相手の様子を伺いながらわからないことがそのままにならないように気遣っていきたいと感じる。

謝辞

今回、私たちの留学生生活を支えてくださった慶熙大学国際教育院のキル・ジス先生、チョ・ソングン先生、イム・リナ先生をはじめ教授の皆様、その他今回の留学にかかわってくださった関係者の皆様にも深く感謝申し上げます。また、普段から韓国語を指導して下さるシン・ウンジュ先生、その他多くの教授の方々にも心より感謝いたします。さらに、本学から頂いた奨学金により留学が実現しました。誠にありがとうございます。皆様のおかげで一生の財産になる非常に充実した留学が実現しました。この恩をどこかで返すことができるよう、留学での経験を忘れず今後も精進していきます。



トウミのウォン・ヘヨンさん



言語交換トウミのキム・ヘジュさん



アメリカ・セントラルミズーリ大学 (ミズーリ州ウォレンズバーグ市)

国際文化学科 2年 馬場 裕也

1 留学先及び実習期間

留学先：セントラルミズーリ大学

留学期間：平成30年8月23日(木)～平成30年12月6日(木)

※帰国は12月7日(金)

2 留学先概要

(1) 大学について

セントラルミズーリ大学は、ミズーリ州のウォレンズバーグに位置する。1871年に創立され、現在では約13000人の生徒が在籍している。ビジネス系や社会学系、デザイン系など総合的な分野に特化している。特に航空学が有名で全国から生徒が集まっている。

(2) 大学で行われている教育について

セントラルミズーリ大学はIntensive English Program(IEP)という英語を母国語としない学生のためのコースが存在する。クラス分けテストの結果で自らの成績にあったクラスに分かれ、勉強に取り組むことができる。クラスは少人数のため生徒が理解するまでサポートをしてくれる。英語だけでなく、アメリカの文化や日本との関係なども学ぶことができる。

3 留学目的

今回の留学の目的は大きく分けて2つある。1つ目は語学力の向上だ。スピーキング力に自信がなく、英語を話さなければならない環境に身を置くことで能力の向上ができたと思った。2つ目は自立して生活することで人間的に成長できると考えたからだ。これまで家から出て、1人で生活したことがなかったため、いい機会だと思い留学を決意した。以上の2点からアメリカに留学することを決めた。

4 スケジュール

月	日	内容
8	22(水)	成田空港近くのホテルで前泊し、アメリカのグラスに出発、乗り換えを経て、大学に到着し、入寮(現地時間)
	23(木)	大学案内ツアー (IDカードの発行、Wi-Fi の接続) Walmartで買い物
	24(金)	採血と予防接種 クラス分けテスト
	27(月)	授業開始 ポーリングパーティー
9	6(木)	大学でアメフトの試合観戦
	14(金)	カンザスシティでゴルフと買い物
	21(金)	Truman Libraryと市場で買い物
10	2(火)3(水)	期末試験
	5(金)	アメリカ人や日本人の友人とともに、キャンプ
	7(日)	
	11(木)	

11	1(月)	学校の近くの映画館に行き映画鑑賞
	12(月)	Thanksgiving Dinner
	16(金)	Thanksgiving Break
	25(日)	
	30(金)	カンザスシティのミュージアムとプラザで買い物
12	3(月)4(火)	期末試験
	5(水)	卒業アワード
	6(木)7(金)	アメリカから帰国

5 時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00～ 10:50	Reading	Communication	Reading	Communication Grammar	10:00～ 10:50 USA Japan Relation
11:00～ 12:50	Writing	Grammar	Writing		11:00～ 11:50 America History
13:00～ 13:50					
14:00～ 14:50	Accent Reduction	TOEIC	Reading Writing	TOEIC	
15:00～ 15:50	Reading Lab Online	Seminar in American Culture	Accent Reduction Writing Lab Online	Seminar in American Culture	
16:00～ 17:00				English Cafe	

6 授業内容

i) Reading

主に教科書と本を授業の中で使用し、内容を理解するとともに速読のポイントなどを学んだ。文の中でわからない単語があれば調べ、知識を増やすことにも繋がった。文章の内容を授業の前までに理解するように言われていたので、予習を欠かさず行った。

ii) Writing

スポーツや文化、習慣などについてエッセイを作成することや、2つものものを比較するエッセイを作成した。エッセイを作成しながら先生が面談の場を設けてくれ、質問やそこまでの内容の添削などを行なってくれた。また、20分の中でエッセイを作成するというのも行い、素早く文章を作成する力が身についた。

iii)Communication

プレゼンテーションを行うために必要なことや手順などを学んだ。個人や複数でプレゼンテーションを計4回行なった。その他にも、会話の音声を聞き、ノートを作成することやテーマについてグループでディスカッションを行なった。

iv)Grammar

文法を一からやり直し、基礎的な知識を深めた。教科書に沿って授業を行い、ペアを作り問題を解いたり、ディスカッションを行なった。映画や音楽などから文法を学ぶことも行なった。

v)Accent Reduction

日本人が苦手とする発音 (thやr、l) の向上を目指し、現地の大学生が発音を細かくチェックし、間違えていればその場で直し感覚として身につくことができた。

vi)Seminar in American Culture/USA Japan Relations/America History

アメリカの文化や歴史について学ぶ授業。授業の中で学ぶだけでなく、実際に文化を体験することができた。年代を決め、その年に日本とアメリカでは何が起き、どうなっていたのかについてもグループでプレゼンテーションを行なった。

vii)TOEIC

新潟国際情報大学の生徒のみで授業を行い、パートごとに授業を進めていった。リスニングではアプリを使いながら授業以外でも勉強をした。プレテストを行なったのち、公式のTOEICを行なった。

viii)Reading Lab Online/Writing Lab Online

先生から課題のメールを受け取り、決められたテーマについて20分の中でエッセイを作成した。

ix)English Cafe

アメリカ人や韓国人、日本人などが集まり、自由に会話する時間。

7 当初目的・目標への達成度

この留学を通して、一步成長することができたと感じている。語学の面だけでなく、人間的にも強くなれた留学だった。アメリカに着いた頃は人に頼ってばかりいたが、自ら行動できるようになっていった。英語が伝わらないこと、聞き取れないことが何度かあったが、成長するチャンスだと思い、伝えるように言い直す、相手にもう一度言ってもらい理解することができた。しかし、もっともっと語学力の向上が必要だと感じることもあり、悔しい思いをしないためにもこの留学での経験をこれからの勉強の糧にしていきたい。

8 反省・課題

授業の課題を後回しにすることが何度かあり、後々面倒なことになったので、計画的に行うべきだったと反省している。TOEICのスコアなど向上はしたが、まだまだ納得のいく結果ではなかったためこれからも勉強を続けてレベルアップしていきたい。

謝辞

今回とてもお世話になった Valerie Heming 先生、Jill Thomas 先生を始めとするセントラルミズーリ州立大学の先生方、留学中にサポートをしてくれた現地の日本人やアメリカ人の友人、3人の先生方、学務課の皆様、助言をくださった先輩方、その他この留学に携わってくださった全ての関係者の皆様に関心より感謝申し上げます。また、この留学に対し奨学金を給付して下さいました新潟国際情報大学に感謝いたします。



Q&A

Q：参加したいけど、留学費用が高いので迷ってます。

A：たしかに留学費用は高く感じるかもしれませんが。保護者の方にこれ以上負担をかけられないという気持ち、よくわかります。留学費用に関して言えるのは、1つは奨学金として20万円が必ず給付されるということです(アメリカコースは30万円)。これだけでもかなり負担が軽くなります。それと、ぜひともお願いしたいのは、アルバイトやお小遣いをこつこつ貯めることです。

社会人になってから留学するのも1つの方法ですが、1年間はもちろん、半年間まとまった時間をとるのは非常に難しいです。しかも留学費用は本学より高くなると思われます。

Q：国際情勢が不安なんですけど大丈夫ですか？

A：最近の国際情勢を考えればご心配はごもっともです。私たち教員はこの派遣留学制度にぜひ参加してもらいたいと考えていると同時に、当たり前のことですが、皆さんの安全や生命についても真剣に、そして非常に大切に考えています。したがって国際情勢があまりにも悪化したと判断した場合には留学中止という苦渋の決断を下さざるを得ません。ちなみに2003年度の中国コースはぎりぎりまで情勢を見極め、最終的には中止しました。このとき参加できなかった学生のうちで希望する人は2004年度に改めて参加しましたし、奨学金も給付され、北京師範大学で取得した単位も本学の単位として認定されました。

Q：語学が不安なので授業についていけるか心配です。

A：ロシア語、中国語、韓国語については勉強を始めて約1年で留学するわけですから、あなただけではなく、誰もが不安だと思います。しかし、心配はいりません。語学の「教科書」は、日頃皆さんが大学で使っている教科書だけではありません。日本を離れ、ネイティブ・スピーカーとともに生活し、その国の文化中に身を置くことで真の語学力というものは身につくものです。短期集中でNative Languageのシャワーを浴びる。そうすることで語学の力は飛躍的に高まることが期待されます。悩む前にとにかく留学してみることをおすすめします！！

Q：仲の良い友人と離れるのがさびしいし、部活やサークル活動もあるので・・・

A：たしかに半年友人と離れるのは寂しいと思います。しかし、よく考えてください。皆さんは多くの仲間や親・親戚に支えながらも、いずれは精神的にもひとり立ちし、たとえ一人でも強く生きてゆくことが求められます。これだけ情報化が進展している時代ですから友人にはメール・SNSでいつでも連絡が取れますし、留学が終われば再会できます。この派遣留学を通じて一回りも二回りも大きくなって帰ってきてほしいと私たち教員は考えています。参加することにより得られるはずの貴重な体験をどれほど失うことになるのか、時間をかけてじっくり考えてください。

Q：高いお金を払ってまでして留学する意味はあるのでしょうか？

A：まず1つ言えることは、国際文化学科の派遣留学制度を利用した皆さんの先輩たちが、留学前と留学後では、人間的に見てとても大きく成長していることが、私たち教員の目には明らかだということです。大学での部活動やサークル活動はもちろん、日頃の授業での真剣なまなざし、ゼミでの積極的な取り組み、学外でのボランティア活動など、いろんな場面で成長を感じさせてくれています。また、卒業論文にも留学の経験が生かされていることがよくわかります。

Q：それでもまだ不安が・・・

A：なるほど。そういう場合には、ぜひ国際文化学科の派遣留学制度に参加した先輩に直接話を聞きましょう。あとは留学体験など海外経験豊富な教員が国際文化学科教員にはたくさんいます。それぞれ生活・留学した国や地域、大学、期間は異なっても楽しい貴重な話を聞けるはずです。遠慮せず研究室をのぞいてみましょう！！

夏期セミナー

2019年度留学先

国名	留学大学	日程
カナダ	アルバータ大学	8月4日(日)～9月1日(日)

カナダコース

(内容は過年度のものですが2020年度も大きく変わることはありません。)

提携校：アルバータ大学（アルバータ州エドモントン）

アルバータ大学は、カナダの5大大学の一つで、アルバータ州の州都エドモントンにある州立の総合大学です。学生数は37,000人を超え、世界約133カ国から2,500人もの留学生を受け入れています。中でもセミナーの受け入れ窓口である生涯教育学部は、英語圏以外の学生に英語教育を行うことで、専門学部の授業を受けられるように年間を5期に分けた定期プログラム（セミナー）を運営しています。

情報文化学部、経営情報学部では、2000年度からアルバータ州立大学での夏期セミナーを実施しています。英語によって自分の考えや主張を伝えるための技術の習得を目指します。英語のクラスは、ESL（英語が第二母国語である人に対する英語教育）のクラス運営のノウハウが活かされた構成となっています。

さらに、大学のキャンパスという限られた「社会」の中だけでなく、様々な面からカナダ社会と接する機会を豊富にもうけ、北米社会の一端を多角的に学びます。カンパセーションクラブ（会話練習）では、参加者と同年代の学生と接することができます。また、ホームステイや企業訪問をとおして、様々な世代や職業の方々と出会うことができます。

海外夏期セミナーの概要と経費について

- (1) 講義科目 情報英語：4単位
 北米社会と情報：2単位
- (2) 実施期間 8月上旬～9月上旬
- (3) 引率者 本学教員が一部同行いたします。
- (4) 宿泊施設 アルバータ大学学生寮（学外の寮の場合もあり）及びホームステイ（現地28日間）
- (5) 講義内容

【情報英語】

月曜から金曜の8時30分から、毎日4時間の英語の授業 ITを活用したIT/E-Portfolioクラスが5回あります。単に単語やフレーズを覚えるだけではなく、異文化の理解を深め、コミュニケーションスキルを身につけるための授業です。帰国後にアルバータ大学から送られる成績と、提出したレポート等で評価を行い、合格者には「情報英語」4単位が認められます。

【北米社会と情報】

滞在期間中に2回の企業訪問・見学があります。北米社会における最新の情報技術に関する知識を得る授業です。また、ホームステイなどを通じて実際に一般の市民がどのような社会生活を送り、日常生活のなかでどのように情報技術を活用しているのかを観察します。

帰国後にアルバータ大学から送られる成績と、提出したレポート等で評価を行い、合格者には「北米社会と情報」2単位が認められます。

- (6) 事前研修 4～7月に週1回（90分）の事前研修に参加することが義務づけられています。

経 費

経費 330,000円

【内訳】 授業料、宿泊費、寮及びホームステイ費用（朝食夕食含む）、バス電車の8月分パス代金

※経費は\$1=85円で算出した概算です。

※今後の円相場の変動や物価の高騰等によって、所要経費に変動が生じる可能性があります。

※参加学生が留学から帰国した後、必要経費を差し引いて残金が発生した場合は、その残金を返金いたします。

費用に含まれないもの

- 海外航空券
(購入先旅行代理店・往復便日時指定、学生自身が申込・支払います)
- 日本国内交通費
- カナダ国内交通費 (ホームステイ先 - 大学間の交通費)
- 海外旅行傷害保険料
- 渡航手続き料 (パスポート取得費、電子渡航認証 (eTA) 申請費用)
- その他個人的費用 (食事、通信費、クリーニング、おみやげ等雑費)

事故に対する対応について

このセミナーが大きな成果を収め、全員無事に帰国することを念願しております。

海外夏期セミナー担当教員が、参加者を対象としたオリエンテーションを15回行い、その中で旅行中や現地での生活に際して遵守すべき事項を指導いたします。万一事故が発生した場合には、滞在先のカナダと我国で次のような対応をいたします。

- 【現地】引率者とアルバータ大学の関係者が、適切に対処するよう最大限の努力を払うこととなります。現地では、アルバータ大学及びその周辺の緊急時の連絡先(関係学部や学内の保安部局、警察、病院等)を記したパンフレットが配布される予定です。
- 【大学】新潟国際情報大学内に学部長を責任者とする事故対策本部を設け、事故に関する情報の収集と伝達、並びに学生の御家族の接遇及び便宜供与にあたります。



夏期セミナー体験記

カナダ・アルバータ大学（アルバータ州エドモントン）

情報システム学科2年 西村 真武

1 研修先及び研修期間

研修先：アルバータ大学 生涯教育学部

研修期間：平成30年8月5日（日）～平成30年9月2日（日）

※帰国は9月2日（日）

2 研修先概要

(1) 大学について

アルバータ大学はカナダ5大大学の1つであり、エドモントンという都市に位置する。学生数は37,000人を超え、世界約133カ国から2,500人の留学生を受け入れており、国際化にも積極的に取り組んでいる。メインキャンパスは2つ先の駅に位置し、非常に美しく広いキャンパスを擁する。また、100年以上の歴史があり、首相や最高裁判所長官、カナダ国旗のデザインを手がけた学生など、様々な著名人を輩出している。大学創立の目的は「すべての人々を社会的、知的、道徳的に高める」ためとされており、この誓いは現在も大学の理念として残っている。

(2) 大学で行われている教育について

アルバータ大学は、質の高い教育を行っていることと、多くの留学生を受け入れていることに特徴がある。語学コースでは4段階にクラスを分け、英語を第2言語として学んでいる学生の中で授業が行われる。授業ではSpeaking/Listening/Writing/Readingをバランスよく学習し、プレゼンや小テストが数回ある。ほかにもITのクラスや学生ボランティアと対話するクラスがあり、それらの評価に応じて単位が換算される。

3 研修目的

今回の研修の目的は、英語力向上と異文化理解のためである。私は中学校、高校と英語の授業が苦手であった。大学に入り、このままではいけないと思い今回のカナダ夏期セミナーに参加した。現代

国際化が進んでいるため英語力が社会に出た時に求められるので研修に参加し少しでも英語力を向上させたい。また異文化理解では、3週間ホームステイが行われるのでホストファミリーの方々からカナダに関する様々な文化を教わる事や、他国の学生と関わりその国の文化を教えてもらい、様々な国の文化を理解し、異文化理解を深めて行きたいと考えた。

企業訪問では、世界の企業でどのようなことが行われているのか

を見学して、今後就職する企業について本格的に考える参考にする。3年生になってから就職の事について考え始めるのでは遅いので、2年生の今から仕事について考え、意見をまとめることから始まる。それにより就職活動をスムーズに行えると考えた。

4 スケジュール

月	日(曜日)	午前	午後
8	5(日)	到着	オリエンテーション、入寮
	6(月)		フェスティバル
	7(火)	IDPクラス	キャンパスツアー
	8(水)	IDPクラス	ホームステイ開始
	9(木)	IDPクラス	
	10(金)	IDPクラス	ITクラス
	13(月)	IDPクラス	
	14(火)	IDPクラス	会話クラブ
	15(水)	IDPクラス	企業訪問
	16(木)	IDPクラス	パーティー
	17(金)	IDPクラス	ITクラス
	20(月)	IDPクラス	会話クラブ
	21(火)	IDPクラス	会話クラブ
	22(水)	IDPクラス	企業訪問
	23(木)	IDPクラス	コーンメイズ
	24(金)	会話クラブ	ITクラス
	25(土)		ITクラス
	27(月)	会話クラブ	ホームステイ終了
	28(火)	ITクラス発表	新潟紹介
	29(水) 31(金)	ロッキーツアーズ	卒業式
9	2(日)	日本へ出発	

5 研修の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i)IDPクラス

英語のスピーキング・リスニングの授業が行われた。英語の基本的なことを学んだ。また課題では、週末に行ったことの発表を5分間行いスピーキングのトレーニングになっていた。

ii)ITクラス

HTMLを利用してホームページを作成する授業だった。初めは、

基本的なホームページの枠組みを作る方法を習い、その後徐々に、工夫を凝らしたホームページにするための高度な方法を習った。

iii) 会話クラブ

他大学の学生を混ぜた2～5人のグループに分かれて、グループごとにネイティブの方が1～2人入って、90分間会話を行うプログラムであった。このプログラムはSUBという場所で行われた。時々、会話の話題にすることが書かれたカードを用いてゲーム形式で進められた。

iv) 課外活動

様々な場所で開催された様々な文化のフェスティバルに参加した。ホームステイ先の親戚内のパーティーにも参加した。

コーンメイズというトウモロコシ畑の一部を切り取って作られる迷路にも参加した。

v) 企業訪問

CBC radio、Pixel Blue Collegeの2か所を訪問させていただいた。CBCでは実際の仕事風景を見させて頂いた。様々な体験もさせて頂いた。Pixelでは芸術やアートの技術を見せて頂いた。

vi) ロッキートリップ

2泊3日で行われた旅行である。1日目は移動に多くの時間がかかった。Sunshine Meadowsというスキー場で軽いハイキングをした。その後Bow Fallsで勢いのある滝を見てきた。2日目は、Lake Louiseで3人1組のカヌー体験をした。その後Moraine Lakeに行き、岩に登りながら景色を楽しんだ。3日目は、Johnston Canyonでハイキングをしながら巨大な滝を見た。



vii) フォートエドモントンパーク訪問

1800年代から1900年代にかけてのエドモントンの街並みが再現されている。自然も豊かである。その時代ごとに街が区切られてあり、建物のデザインもだいぶ異なる。細部まで細かく再現されている。4Dシアターでは楽しくエドモントンの歴史について知ることができた。



viii) 修了証書授与式

記念写真と修了証書を頂いた。夏期セミナーを通して、特に頑張った学生にはプレゼントが贈呈された。最後に集合写真を撮影した。



6 当初目的・目標への達成度

今回の研修の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) 英語力を上げること

帰国後、後期のスピーキングの授業では、以前よりも聞き取る事ができた。それに満足せず英語の勉強を継続していく必要がある。

ii) 企業について考えること

2回の企業訪問により、様々な職種の会社、多くの仕事を理解することが出来た。これからは、前述したとおり、就職はまだ先のことであるという考えを持つことなく、常に将来就職する企業についてさらに深く考えていく必要がある。

iii) 異文化を理解すること

異文化は、ホストファミリーの方々と共に生活することやクラスメイトと様々な活動を行っていくことによって自然と理解することが出来た。普段慣れている日本での生活や行動と比べて違いを体験することができ、それに慣れるためにはどうすればよいか考え、行動に移すことが出来た。

7 反省・課題

一ヶ月という短い研修であったが、非常に多くのことを学ぶことができ、有意義な研修となった。今回の研修で学んだことを今回きりで終わりにせず、これからも英語や情報についての勉強を粘り強く続けていきたい。また今回の研修で異文化に対する理解が深まったので、様々な物事を色々な視点から考えることを大切にしていきたい。

謝辞

今回、アルバータ大学生涯教育学部にて懇切丁寧な指導をしてくださった、Martin Guardado校長、Greg Sowak先生、Mark Bellさん、Maureen先生、Miso Kimさん、Tomさん、ホストファミリーのRayさん、Nazekさん、その他大勢の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、本学の夏期セミナー担当で2018年度前期の講義、夏期セミナーの現地サポート、帰国後の各種活動への指導を賜りました、阿部先生には心より感謝いたします。最後に、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、本セミナー参加が実現し、有意義な体験ができたことを、心から感謝いたします。



この派遣留学制度への問い合わせは、各地域担当教員もしくは学務課国際交流室へ。